症が起タ後デハ此關係ハサウ簡單ニハ言ヘマイ
ト思フ。此點 Ertl ト同意見デアル。少クモ之
等ガ急性炎症ノ際ノ含嗽ヲ有效ナラシメルト言
フ程ノ意味ヲ持ツトハ思ヘナイ。從テ急性炎症

ノ在ル時ハ炎症組織ヲナルベク安靜ニシテ置ケ
ト言フ立前カラ含嗽ヲ差控ヘルベキダトスル
Uffenorde, Kirschner 等ノ原則ヲ之ガ爲メ
捨テテヨイトハ思ヘナイ

所謂『乳嘴突起炎』ナル概念ヲ排セル急性中耳炎論

Die akute Otitis media ohne "Mastoiditis" von Dr. A. Linck

[Aus Arch Ohr- usw. Heilk. Bd. 145, H. 2.]

A. 緒言

急性中耳炎ノ本態ニ關スル知識ノ進歩ニ從
ヒ、乳嘴突起炎ノ概念ガ失ハレルデアラウト言
フ著者ノ期待ハ裏切ラレ、其概念ハ論争ニ依ツ
テ幾度カ支離滅裂トナリナガラモ、最近ノ全書
ニ迄其名ヲ現ハシテキル。著者ハ夙カラ此概念
ノ濫用ハ、實際上惡イ混亂ヲ招キ、概念ノ不統
一ガ手術指適ヲ危フカラシメルト戒メテキタ。
人ハ乳嘴突起炎ノ概念ノ混亂ヲ、或人ハ蓄膿症
ヲ乳嘴突起炎ニ歸センメ又或人ハ乳嘴突起炎
ヲ蓄膿症ニ歸センメヨウトスル不一致ヲ生ズル
モノトシ、Marx ノ如ク、乳嘴骨炎 (Ostitis
mastioidea) ナル新定義ヲ提唱シテ尙ホ夫レニ
實用上ノ價值ヲ付ケヨウトシテキルモノモアル
ガ、夫レハ問題ヲ一步押シヤツタニ過ギナイ。
乳嘴突起炎問題ニ於ケル彷徨ハ、急性中耳炎ニ
對スル觀念ト觀察法ニ於ケル彷徨ニ因ツテ來タ
事ハ明カデアル。後者ハ現在行詰ツタ状態ニア
リ、事ヲ此處ニ到ラシメタ所以ハ、過去50年間
ニ中耳ノ解剖ト病理ノ科學的檢索ニ依テ得タ進
歩ノ跡ヲ見ルトキニ判ル。

B. 中耳ト中耳炎ノ位置の觀念ノ

進歩ト變遷

Schwartz の中耳手術編ニハ中耳ト乳嘴突起
トハ別々ニ取扱ハレテキテ、鼓室炎ハ二次的ニ
乳嘴突起炎ヲ起スト考ヘテキル。從ツテ乳嘴突
起炎ナル概念ハ症候、診斷、手術指適等ノ臨牀
的ノ問題ニ於テ實際上大キナ役割ヲナシタ合
併症、手術ノ要否等ノ問題ハ主トシテ乳嘴突起
部ニ炎症ガ存スルカ否カニ依ツテ決メラレタ。
Denker, Brünings ノ教科書デハ、基礎學的記
述中ニ乳嘴突起トカ、乳嘴蜂窠ナル部門ヲ設ケ
ズニ、乳嘴竇ト申スルヲ言フコトニシ
テキル。後者ハ最近デハ乳嘴突起部ノミデナク
額骨、迷路ノ前方ニ迄存スルコトガ判ツタ。
最近ノ Körner 等ノ教科書デハ此傾向ガ強イ
ガ、急性中耳炎ト急性乳嘴突起炎トハ別々ノ章
デ取扱ツテキル。

教科書ニ於ケル如上ノ諸相ハ、叢書ノ上ニモ
アラハレテキル。

C. 『急性中耳炎』ト『乳嘴突起炎』ナル

矛盾セル分類

斯ク觀來タルト、吾人ハ解剖學的ノ觀察、記
述ニ於テ最初別々ニサレテキタ中耳及ビ乳嘴突
起トハ一ツニ纏メラレテ來タルニ反シ、病理學
的ニハ尙ホ昔ノ儘別々ニ取扱ハレテキルノニ氣

が付クデアラウ。然シ斯カル分離ガ此方面ニ尙ホ存シテキル事ハ。別ニ深い根據ガアル譯デナク。人々が慢然ト之ニ依ツテ對象ヲ容易ニ概觀シ得ルト考ヘテ居ルカ。或ハ因襲的ニ用ヒテキルト言フニ過ギナイ。ガ。乳嘴突起炎ニ對スル病理學上ノ論爭ハ。實ニ此處ヨリ生ジテキルモノデアル。

然シ斯ル矛盾多イ概念モ。其用ヒ方モ實際上ニ有益性合理性ガアルナラバ。先ツ妥協シテ行カネバナラナイガ。之ニハ前提ガ要ル。即チ急性中耳炎トハ。側部頭蓋底ノ含氣腔系ノ炎症デアリ。夫レニハ殆ンド必ズ乳嘴突起ノ炎症ガ部分症トシテ起ルト言フコトガ判ツテキル以上。乳嘴突起炎ナル概念ハ。先ヅ在來ノ單一ナ明ニ限定サレタ意味ヲ失フ。夫レニ應ジテ乳嘴突起炎ナル總括的概念ハ。初期乳嘴突起炎 (Anfangsmastoiditis) 乃至乳嘴突起症 (Mastoidismus) ナル部分的概念ト區別シナケレバナラナイ。然ラザレバ此概念ハ統一性ヲ失ツテ。人々が夫レヲ用ヒルトキ。一々夫レガ粘膜炎症。蓄膿症。骨膜炎。含氣蜂窠炎。骨融合等ノ中ドレヲ指スノカヲ斷ラネバナラナクナル。

既ニ久シク吾人ノ臨牀上ノ興味ノ對象ハ。乳嘴突起炎ナル概念ヲ律シ得ル範圍外ノ病變例ヘバ。顳骨顳顬骨部。歐氏管周圍部。岩様部等々ノ病變ニ迄及ンデキル。斯クシテ乳嘴突起ナル概念ニ結ビ付ケラレタ病氣ノ觀念ハ。從來外カラ確認シ得タ病的狀態以外ニ。外カラ判ラナイ病態ヲモ含ム様ニナツタ。

然ラバ乳嘴突起ナル名稱ハ不適當デアリ。其下ニ乳嘴突起ト何等關係ノナイ部分ノ事ヲモ含マセテマデ。其概念ノ存続ヲハカル事ハ。混亂ヲ招クノミデアラウ。

『乳嘴突起炎ノ早期手術』等ノ問題ニ關シテモ斯カル混亂セル概念ヲ土臺トシテハ論爭ノ盡キル筈ハナイ。

然ルニ此様ナ見地カラ。此問題ヲ論ジテキル人ハ。著者ハ今マデ或週刊雜誌デ讀ンダー文以外ニ之ヲ知ラナイ。其人ヲ不幸ニシテ思ヒ出セナイガ。之ハ著者ノ嘗テノ論文『中耳炎及ビ乳嘴突起炎ナル概念ハ吾人ノ現在ノ考ヘ。及ビ明瞭ニシテ合理的ナ記述ノ要求ニ對シ。何ノ程度迄適當スルカ』ヲ物スル動機トナツタモノデアル。

D. 考察並ニ記述ニ際シ簡單且ツ自然

的ナ病理解剖學的單位『中耳炎』

ナル概念ヲ設定スル事

上述ノ如キ行詰マリヲ打開スル方法ハ之以外ニナイ。此際幾多ノ小名辭ヲ失ハレルコトハ何等差支ナイ。夫等ハ一般ノ實地家ニハ無益デアアル。中耳部ニハ鼓室ト鼓室周圍含氣腔トガアルト言フニ止マリ。從ツテ其處ニハ中耳ノ全粘膜部ヲ罹患腔トシテ包含スル『急性中耳炎』ガ存シ得ルニ過ギナイ。之ガ毒力ノ程度。炎症ノ強弱。罹患腔ニ於ケル病理解剖的反應ニ依ツテ種種ノ段階ガ出來ルガ。其分類ハ簡單ナ急性中耳炎ト。複雑ナ急性中耳炎トノ二ツニナセバ足りルノデアル。

複雑ナル全耳炎及ビ周圍炎ガ如何ニシテ成立スルカニ關シテ。乳嘴突起炎ナル概念ヲ用フルコトナク述ベタ事ガアルガ。其際導入シタ含氣蜂窠炎 (Pneumatocellulitis) ナル語ハ。何等複雑ナ創作デナク。粘膜ヲ以テ被ハレタ含氣蜂窠ノ炎症ニ對シテハ。端的ナ譯語デアリ。罹患腔ノ何ノ部分ニモ用ヒラレ。且ツ疾病ノ如何ナル時期ニモ使ヒ得ルト云フ便ガアル。

1. 單純ナル急性中耳炎。其本質ニ從ヘバ

急性中耳炎ハ粘膜—含氣腔ノ被膜—ノ炎症デアリ 充血期、極期、減退期、恢復期ナル4期ヲ以テ經過スル。夫レハ急性「クルップ」性肺炎ニ似テ居リ、炎症產物ノ排膿ト吸收トガ治癒機轉ノ主要部分デアル。

然シ炎症ハ時ニ粘膜ニ止ラズ、充血期及ビ極期ニハ輸入血管ノ壁ニ沿フテ、骨質ニ一過性ノ破壞ガ起ル。之ハ炎症性充血ノ結果血管ヲ容ル、空間ノ増大ガ求メラル、ノデ、夫レニ應ズル爲メデアル。故ニ炎症ノ減退ト共ニ又恢復スル。之ハ化膿性ノ融合デナク、如何ナル乳嘴突起炎ノ型（例ヘバ初期乳嘴突起炎）ニモ來タル。唯間隙性吸收（lacunäre Resorption）ノ強弱ト擴ガリ、及ビ其成行ニ差ガアルノミデアル。即チ一ハ再生ガアリ 他ニハ病變ノ進行ガアル。又病的變化ハ時ニ既成ノ腔ニ止マラズ、充血期ニ於テ頭蓋内外、迷路ニ入ル。之隨行性一過性ノ漿液性炎症デアリ、輕イ合併症ノ如キ狀態ヲ示スガ恢復ニ何等障碍ヲ及ボサズニ治癒スル。

2. 複雑ナル急性中耳炎。之ハ以上ノ如キ經過ヲトラズ、周圍ニ恢復セザル乃至生命ヲ脅ス病的狀態ヲ起ス種ノモノデアル。

既存ノ含氣腔ノ隣接部ハ、纏メテ之ヲ系統ニナスコトガ出來ル。一ツハ腔間ノ骨壁デアリ、一ツハ迷路及ビ頭蓋内外ノ諸部デアル。第一ノ系統ノ病變ハ、言ハバ中耳炎ノ同心的ノ擴大デアリ、其破壞ニ因リ膿瘍ガ形成サレル。此變化ハドノ腔ニモ起リ得ルガ、特ニ乳嘴突起部、岩樣部、額骨顙額部ニ見ラレル。夫レハ蜂窠發達ガ高度ナルニ因ル。之ニ反シ錐體蓋部、歐氏管周圍ニハ少イ 第二ノ迷路、頭蓋内外ヘノ病變ハ遠心性ノ擴大デアリ 毒力ノ強イ時又ハ身體抵抗力ノ低下セル時、單純性ノモノカラ直接ニ起

リ得ル。即チ其時ハ骨ノ破壞ヲ介サズ、血管ヲ通ジテ起ルノデアルガ、一般ニハ同心性ノ進行ヲ經テ次第ニ起ル。前者ハ電擊性ノ急性中耳炎デアル。

E. 臨牀的觀察ニ際シテノ自然的ナ

病理解剖的單位『急性中耳炎』

解剖學的及ビ病理解剖學的單位『急性中耳炎』ヲ總括スルト、臨牀的ニモ總テノ病的變化及ビ其結果ヲ一ツノ觀點カラ觀察シ記述スル必要ガ生ジ、實際又夫レガ可能トナツテ來ル。

〔I〕 急性中耳炎ノ症候論。急性中耳炎ノ症候ニハ二種類アル。一ハ既存ノ腔自身ノ病變ニ因ルモノデアリ、臨牀的病像ノ基礎ヲナス。熱、耳痛、難聽、耳漏ガ之デアル。他ハ隣接部、遠隔部ヘノ作用デ 隨伴症狀ト呼ブ。

（1）單純ノ急性中耳炎ノ症候。基礎症候ハ此場合、典型的ニ經過スル。熱ハ急ニ昇リ、分離的ニ下ル。1週乃至2週日目ニハ平常トナル。耳痛ハ炎症ト共ニ始マリ急速ニ最高點ニ達シテ鼓膜穿孔ガ起レバ直グニ、起ラナケレバ漸次ニ消退シテ行キ大體1週間デ無クナル。難聽ハ中耳性デ最初ハ耳鳴ヲ伴フ。滲出液ノ多少、鼓室粘膜ノ腫脹ト共ニ、第1、第2日ニ最高點ニ達シ之等ノ消退ト共ニ漸次恢復スル。3—4週日デ平常ニ戻ル。耳漏ハ穿孔ノ有ル時ニノミ來ルノハ勿論デアルガ、多クハ2—3週間デ停止スル。症例ニヨリ、以上ノ範圍内デ種々ノ段階ガアルガ、特異ナコトハ恢復ニ向ヘバ例外的ニハ一時的ノ停頓ヲ示スガ、全體トシテ一途ニ恢復ニ向ヒ途中再惡化ヲ起スコトガナイ 基礎症候ノ消失ハ必ズ決定的デアル。若シ再惡化ヲ示セバ、之ハ單純ナモノデハナイ。

隨伴症候ハ餘リ問題デナイ。之ハ此種類ノ特徵

デアル。例外的ニ乳嘴面ニ疼痛、腫脹、グラデ
ニゴ氏症候、三叉神經刺戟症狀、顔面神經麻痺、
腦膜刺戟症狀、輕度ノ迷路刺戟症狀等ガアルガ、
初期ニ見ラレ直グ消失スル(多クハ穿孔、排膿ト共ニ)。

(2) 複雑ナル中耳炎ノ症候。電撃性カラ漸進性ノモノ迄種々アル。

電撃性ノモノデハ、基礎症候ハ一相性ノ急激ナ経過ヲトル。熱ハ急激ニ上昇シ、弛張ヲ示スコトモアリ、耳痛ハ鼓膜穿孔後モ激シク頭痛マデ惹キ起シ難聴ノ初メカラ高度デアルガ、更ニ迷路ノ副行性浮腫ニ因リ、内耳性性狀ヲモ呈スルニ到リ、時ニ全聾トナル。耳漏ハ血性漿液性デ夥シイ

隨伴症狀ハ亦甚ダシク、全身症狀ハ侵サレ、其侵サレタ場所ニ依ツテ 2 週間目ニハ夫々ニ特異ナ隨伴現象ヲ示シテ來ル。之等ハ單純性ノ場合ト異リ、一過性デナク、益々進行スル。

潛行的漸進的ノモノデハ、明カニ區別サレル 4 期ガアル。

基礎症狀ハ最初ノ 3 期ヲ占メル。第 1 期デハ粘膜炎症デアル故、症候ハ單純性ノ場合ニ似テキル。第 2 期デハ同心性融合ノ開始期デアリ、尙ホ單純性中耳炎ノ相ヲ呈スル。熱、耳痛ハ無イ耳漏、難聴ハ少イカ、減少ノ傾向ヲ辿ル。第 3 期ハ膿瘍形成ノ顯現スル時期デアル。熱、疼痛ハ再ビ現ハレル。膿モ多クナリ、乳脂様トナル。排膿量ト疼痛、熱トハ相反スル。時トシテ膿ハ最初ノ時期丈デ全ク止マルコトガアル。

更ニ、稀ニハ膿、耳痛、熱モ氣付カズ、唯聽力障害ガ續イテキテ、癒ラヌト言フ形デ第 3 期迄ヲ過スコトガアル。

隨伴症狀ハ第 1 期デハ單純性ノモノト同ジデア

ル。一過性ノ合併症様症候ヲ見ルコトモアル。

第 2 期デハ基礎症候ガ無クナツタ後、ヨク檢スルト食思不振、舌苔、患側頭重、打痛等ガ證セラル、事ガアル。第 3 期モ同様デアル。

第 4 期ニ於テ初メテ隨伴症狀ガ重要症狀トナリ破壊ノ像ヲ示ス。時トシテ前徵トシテ基礎症狀ノ急激ナ惡化ヲ見ル事ガアル。

〔II〕 急性中耳炎ノ診斷

此診斷ノ目的ハ、急性中耳炎ヲ夫レト確認シ其経過ノ性質ヲ極メ、病狀ノ消退シ得ルモノナルカ治癒傾向ナキモノカラ決定スルニアル。然シ單ニ上述ノ症候ノミニ依テ確定スルコトハ出來ズ、耳鏡検査ニ依ル補正ヲ要スル。

單純ナル中耳炎デハ、症候ト耳鏡検査所見トハ一致スル。即チ症候ノ上昇期ニハ、鼓膜及ビ其附近ノ外觀モ惡化シ、兩者ハ臍テ同時ニ良好ニ向フ。複雑ナル中耳炎ノ診斷ニハ症候、耳鏡検査所見ノ參酌及ビ「レントゲン」検査ヲ手段トスル。

電撃性ナル場合ハ、症候的ニ直グ判ルガ、潛行的漸進性ナルモノハ、其第一、第二期ニハ之ト診斷ガ付キ難イ。特ニ食思不振、舌苔等ガアリ打痛、頭重感等ヲ證スレバ疑ハシイ。確實トナルノハ第三期ニナツテカラデアル。第四期トナレバ破壊ノ場所モ判明シテ來ル。然シ第三期ニ於テ破壊ニ頻セル事ヲ感知シ、手ヲ盡スコトガ重要デアル。第二期ニ於テハ症候ガ減退スル爲メ治癒ニ向フモノト誤ル。之ガ一週間位デアレバヨイガ二、三週間續クト其間ニ侵蝕ガ進行シテ危險デアル。

之等ヲ防グニハ乳嘴突起部ノ視診、觸診ハ益ガナイ。夫レニハ第一、耳鏡検査ニ於ケル融解期ノ遷延停頓シツ、アル状態ヲ見ルコトガ手懸リ

トナル。此停頓ハ鼓室周圍ノ炎症ガ進行シテキル爲メ。鼓室自身ハ輕快ニ向ハントスルニ不拘受動的ニ亞急性狀態ニ長引クモノデアル。

融解阻害ハ他ニ過酸化水素ニ依ル治療ヤ、咽頭扁桃腺増殖等ニ因ツテモ來ルガ、夫レハ原因ヲ除ケバ治癒スルモノデアリ。此點周圍含氣蜂巢ノ炎症繼續ニ因ル此種ノモノト異ル。而シテ之ハ單純ナ融解期阻害、外聽道後上壁ノ下降及ビ粘膜脫出ノ3型トナツテ見ラレル。

單純ナ阻害ノ狀態モ種々ノ程度ニ來ル。即チ殆ンド正常ノ鼓膜光澤ニナラントスル狀態ニ停頓シテキルモノカラ。發赤肥厚ノ去ラナイモノ迄アル。上述ノ種々ノ所見カラ其原因ノ病竈ガ何處ニアルカヲ判定スルコトハ容易デナイガ、大凡ヲ言ヘバ、單ナル停頓ハ、鼓室カラ割ニ離レテ岩様部、尖端部、後上壁ノ下降ハ乳嘴突起部、顚骨顚額骨部、粘膜脫出ハ鼓室附近、例ヘバ乳嘴突起部、顚骨顚額骨部、歐氏管周圍部ニ病變アリト想像サセル。耳鏡検査ニ依ル此遲延狀態ノ確認ハ一般經驗アル人ナラバ、誰ニモ出來ル事デアル。時ニハ第二期ニ於テ諸症候ノ靜止時ニ之ヲ見ル事ガアル。

茲ニ於テ在來ノ混亂ト矛盾ヲ持ツタ乳嘴突起炎診斷ハ全然不要トナツタ。然シ之ハ乳嘴突起ヲ頭蓋外ニ膿ガ破レル迄注意セズニ居テヨイト言フコトデハナイ。其處ニ何等視診、觸診ノ變化ガナクモ、以テ安ンジテシマフ事ハナクナラウシ。又疼痛、腫脹ガ證明サレタ時ハ夫レヲ正當ニ評價シ他ノ診斷的成果ニ補足的ニ役立つシムルヨウニナラウト言フノデアル。

次ニ「レントゲン」ガ診斷ニ有力デアル事ハ言フ俟タナイガ、特ニ第二期ニ於ケル診斷ニ其效果ガ出ル。錐體尖端部ノ病竈ハ之ニ依テ知り得ル唯潛行的ノ中耳炎ガ深イ歐氏管周圍又ハ岩様部ニ在ル時、之ヲ第二、第三期ニ確定スルコト

ハ必ズシモ可能デナイガ、實際上斯カル場合ハ何カ合併症ガ起ラントシテキルト言フコトガ判レバヨイ。後ハ手術ニ依テ確メル。

一般ノ醫師ハ、外ニ見エル症候ノ消長曲線丈ニ依テ單純ナモノカ、複雑ナモノカヲ診斷シ、後者ヲ専門家ニ送レバヨイ。唯此際症候ノ多様性ガ治療方法ニ因ツテ人工的ニ作ラレテキナイカ。否カラ考慮セネバナラナイ。此意味デ下熱劑ノ投與ハ控ヘタ方が良イノデアル。

〔Ⅲ〕 治 療

急性中耳炎ハ、多クノ場合單純性ニ屬シ、治癒スル。隨分不合理ナ治療ヲシテキテモ案外ニ治ルモノデアル。

治癒機轉ノ主タル排膿ト吸收トヲ促ス事ガ治療ノ最善デアル。温、冷熱療法、鼓膜穿刺等アル。鼓膜穿刺ノ要否、時期ニ關シテ論ガ一致シナイガ、其場合中耳炎ノ惡性、良性ガ地方々々ニ依テ異ル流行病ノ關係ニ因ツテ大イニ異ルモノデアリ。從テ各人ノ經驗材料ガ必ズシモ同一條件ニナイ事ヲ考慮セネバナラナイ。然シ若シ鼓膜穿刺ノ必要ガアル時ハ、之ハ藥劑ナドデ代ヘテハナラナイ。

總テ複雑ナル急性中耳炎ハ手術ヲ要スル。其時期ハ病變ガ既存ノ腔ヲ超エタト知レタ時デアル。此診斷ハ即チ手術ノ指適デアリ。診斷ト手術指適トハ一致スル。一般ノ外科デハ診斷ガ必シモ絶對的ニ手術ヲ命ジナイ。ソコニハ手術ノ危險ヲ顧慮スル事ガアル。耳科ニ於テモ嘗テハサウ言フ時代ガアツタガ現在ノ進歩段階デハ、夫レハ意味ノナイ事トナツタ。

總 括

著者ハ如上所謂乳嘴突起炎ナル概念ヲ抜き急性中耳炎ヲ一ツノ單位ニ纏メル方法ヲ以テ總テヲ取扱ツテ來タガ、年ト共ニ益々其有益性ヲ痛感シテキル。